

1

2026
Jan

KAN
No. 238



謹賀新年

新年のあいさつ

神埼市長

實松 尊徳



明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、私が市長に就任して1年8ヶ月が経ちました。私は「4年」という任期は目標を明確にして取り組まなければ、あっという間に過ぎてしまうと考え、毎年、市政運営の目標を掲げています。

1年目の目標は「信頼回復」と「大雨対策」でした。不祥事の再発防止策を講じるとともに、定例記者会見などを通じて、市の取組を積極的に情報発信してきました。また、線状降水帯による豪雨災害を踏まえ「安全安心のまちづくり」を重点項目に掲げ「流域治水」を推進しました。クリークの事前排水や田んぼダム、城原川ダムや排水機場の建設促進などに取り組み、市民の皆様のご協力のもと、少しづつではありますが前進しています。

2年目の目標は「人材育成」と「種まき」です。市職員の成長は、市の発展に欠かせません。人材育成型の人事評価制度の導入や民間企業への職員派遣も行うこととしました。また、地域公共交通の確保、新たなデマンド交通の検討、神埼高校跡地・旧庁舎跡地活用や中山間地の農業振興など、将来を見据えたプロジェクトの種まきを進めています。子育て支援や教育の充実にも力を入れ、次世代を担う子どもたちの育成に取り組んでいます。

3年目となる今年の目標は「関係人口の創出」です。4月には吉野ヶ里歴史公園県営エリアの一角にスノーピークのキャンプ施設とスターバックスコーヒーがオープンし、神埼高校跡地や旧日本堀団地跡地では新たな住宅開発が始まる予定です。また、新しい地域公共交通の開始や地域おこし協力隊の着任など、多くの取組が動き出します。

令和8年(2026年)は、「丙午」の年です。市制施行20周年という節目の年を、神埼市のさらなる飛躍につなげるため、積極的に施策を進めてまいります。

結びに、皆様にとりまして、本年が幸せで実り多い一年となりますことを祈念し、新年のご挨拶といたします。

神埼市議会 議長

野副 芳昭



明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、神埼市議会の活動に対し、深いご理解とご協力を賜り、市議会を代表して厚く御礼申し上げます。

市議会では、市民一人ひとりの声に真摯に耳を傾け、皆様の暮らしに寄り添う議会運営を大切にしながら、日々の議論に取り組んでまいりました。

昨年は、議会の役割や責務を明確にし、より開かれた議会を目指すため「神埼市議会基本条例」を制定し、また、議員自らが高い倫理観をもって行動することを明文化した「神埼市議會議員政治倫理条例」を制定いたしました。

これらは、市民の皆様の負託に応える議会であり続けるための大切な礎であり、今後も条例の理念を議会一丸となって実践に結び付けてまいります。

また、城原川ダム事業に関しましては、長年住み慣れた土地を離れ、新たな生活を始めた方々のご心情を思うと、そのご決断とご苦労に対し、改めて深い敬意と感謝の念を表します。

市民の安全・安心を守るという大きな目的のもとで進められている事業ではありますが、その陰で多大なご負担と葛藤を背負われた方々の存在を、私たちは決して忘れてはならないと考えております。

今年の干支「馬(午)」は十二支の七番目で、力強さや前進を象徴し「物事がうまくいく」とされる縁起の良い年でもあります。

本年も、少子高齢化への対応や地域の活力維持、子育て・教育環境の充実など、身近な課題一つひとつに誠実に向き合い、市民の皆様に信頼される議会を目指し、力強く前進してまいります。

結びに、新しい一年が皆様にとって心安らぐ実り多い年となりますよう心からお祈り申し上げますとともに、本年も市議会への変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。



新しい年、新しい笑顔を。



特別対談

實松市長



ちとせよしのさん



今回は新春らしい華やかな特別対談。お迎えしたのは、千代田町出身のちとせよしのさんです。高校卒業後に鉄工所での勤務を経て、現在はタレントとして全国で活躍する多忙な日々を過ごされています。

対談では、故郷・神埼市と東京、どちらの良さも知るちとせよしのさんならではの目線で、楽しいアイデアや神埼市の魅力などが幅広く語られています。特に若い世代に向けて、子育て支援や旧庁舎跡地の整備など、注目の話題も。ぜひ、ご覧ください。



ちとせよしのさん
Chitose Yoshino

2000年生まれ／神埼市千代田町出身／元県内鉄工所勤務
グラビアアイドル・アイドル(あまいものつめあわせ ピンクとしても活動中)・大食いタレント。
週刊ヤングマガジンの表紙を務めるなど雑誌やTV番組などで活躍。
YouTubeの公式チャンネル「よしのんチャンネル」登録者31.8万人、
SNSの総フォロワー数は125万以上と人気が上昇中。

特別対談

ちとせよしのさん × 實松市長



實松市長——まずは自己紹介をお願いしたいのですが、ちとせさんが私と同じ千代田町のご出身だったと知り驚きました。

ちとせさん——そうなんです、実はご近所さんですね。私は佐賀北高校を卒業後、鉄工所で働きながら19歳でタレント活動をはじめ、1年ほど佐賀と東京を往復していました。今年で上京して7年になりますが、帰るたびに「やっぱり神埼っていいな」と感じます。

實松市長——どんなところが魅力ですか？

ちとせさん——帰省中にすれ違った学生さんから「こんばんは！」と声をかけてもらい、「ああ、こういう日常ってありがたかったんだな」と気づきました。空の広さや野菜の無人販売、近所の方に果物をいただくような温かさも、東京ではなかなか味わえません。

實松市長——都市部から来られた方からも「子どもが元気に挨拶してくれるのが新鮮」と言われます。こうした日常の温かさや人との距離感は、神埼ならではの魅力ですね。

ちとせさん——次郎の森公園でのお花見や冠者神社のお祭りも好きです。変化が早い社会だからこそ、ゆっくり過ごせる時間や場所があること自体、すごく価値があると思います。

まちの取り組みを若い世代に届けたい

實松市長——神埼について、若い世代の目線で感じることはありますか？

ちとせさん——今日のお話を聞いていて、子育て支援など魅力的な取り組みがたくさんあるのに、若い世代にはまだ十分に伝わっていない部分があるのかなと感じました。

實松市長——高校卒業までの医療費助成や、県内唯一の取り組みとしてベビーカー・ベッドの無償レンタルなども好評です。実際、全国では3人目のお子さんがいる子育て世帯の割合が11%なのに対し、神埼市では17%と高く、子育てがしやすい環境であることが数字にも表れています。



新しい年、
新しい笑顔を。



ちとせさん——これから未来をつくっていくのは若い世代なので、子育て支援は本当に大事だと思います。ぜひ多くの人に「子育てしやすいまち・神埼」を知っていただきたいですね。

“来たくなる、住みたくなるまち”へ。

ちとせさん——若者の立場としては、気軽に立ち寄れるカフェや、おしゃれな場所が増えたらいいなと思います。そうしたスポットが増えることで、神埼で働きたいと感じる若い世代も増えるのかなと。

實松市長——旧庁舎跡地で公園やチャレンジショップの整備を進めたいと考えています。また、今春にはスターバックスが出店するキャンプ場がオープンします。今後はIT系企業などの誘致にも取り組み、若い方が「神埼で働きたい」と思える環境づくりにつなげていきたいですね。

ちとせさん——企業誘致にはとても期待しています。今日のお話で、神埼市が未来に向けてさまざまなことに挑戦していると知り、出身者としてとても誇らしくなりました。私も

SNSなどを通じて、若い世代に届きやすい形で魅力を伝えていけたらと思います。

實松市長——それはすごく心強いで。神埼市がこれからさらに成長していくのにあわせて、ちとせさんのご活躍も広がっていけば、お互いにとって喜ばしいことです。今年3月の合併20周年事業では、これまでを振り返りながら、市民の皆さんと「からの神埼」を一緒に考えていきます。節目の年を契機に、さらなる飛躍に向けた取り組みも進めていきますので、ぜひ一緒に神埼を盛り上げてください。

ちとせさん——はい！神埼にもっと笑顔が増えるようなお手伝いができるならうれしいです。



10/30 内田博隆さん(神埼町)
交通安全功労者表彰を受賞

交通安全のために多大な功績をあげた個人・団体を対象に、県庁で交通安全功労者表彰式が行われ、市からは内田博隆さんが受賞されました。

内田さんは、平成26年から現在まで交通指導員として活動されています。特に子どもたちへの交差点での街頭指導やイベント時の交通誘導など、交通安全啓発活動に幅広く貢献されています。



表彰を受けた内田さんは「子どもたちの元気なあいさつのおかげで、毎日頑張ることができています」と活動を振り返りました。

10/31~11/2 芸術の秋彩る 第3回神埼市文化祭



神埼市中央公民館で神埼市文化祭の展示部門が開かれ、市民の皆さんのが心を込めて制作した作品が一堂に会しました。

会場には、絵画や生け花、陶芸品など個性豊かな展示が並び、来場者を楽しませました。地域の自然や伝統をテーマにした作品も並び、来場者からは「地域の魅力が伝わる作品が多く、感動した」といった声が聞かれました。

11/15~30 秋の九年庵一般公開
約4万6千人が来園

紅葉の名所で国の名勝「九年庵」が11月15日から30日に公開されました。

今年度は、より多くの人に楽しんでいただこうと公開期間を1週間延長。約4万6千人が訪れ、深まりゆく秋を満喫しました。

今回、新たに庭園や建物を上方から見下ろすことができるルートも公開され、茅葺屋根の建物と色づいたモミジ、そして苔の緑の織りなす景観が来園者を魅了しました。

また、県内外のアーティストによる演奏会や嬉野茶のふるまいなどもあり、来園者は「演奏と景色が合って素晴らしい」と話されました。



11/17 偽電話詐欺に気を付けて!
仁比山小6年生が特殊詐欺について学習



仁比山小学校6年生が偽の電話をかけてお金をだまし取る「特殊詐欺」について学びました。

神埼警察署仁比山駐在所の有森幸二さんが「犯人は家族などになりますて電話をかけ『事件に巻き込まれて、急にお金が必要』などと信じ込ませてお金を振り込ませます」と説明。県内でも被害が増えていることを紹介し「身近な人に注意を促して」と呼びかけました。

仁比山郵便局の宮崎明雄局長は年賀はがきを提供し、児童たちは祖父母などへの年賀状に「詐欺電話に気を付けて」「知らない人からのお金の話は信用しないで」と書きました。

トピックス

11/19 神埼清明高校と 神陽団地住民が交流会

神埼町の神陽団地住民と高校生との交流会が団地の公民館で開かれました。団地住民15人と、福祉を学ぶ神埼清明高校生17人が参加し、ゲームなどで親睦を深めました。

交流会は、地域の活性化を図るために令和元年に住民側から申し入れてスタートした年1回の恒例行事。歌を使った体操や認知症予防のゲームを全員で楽しみ、参加者からは「やっぱり若い人があると違うね」と笑顔が弾けていました。



12/7 城原川ダム水没地域への 感謝のつどい

神埼市中央公民館に城原川流域をはじめとした地域住民や行政関係者ら385人が集まり、城原川ダム建設に伴い、住み慣れた家や土地を離れる水没地域の方々への感謝を伝えました。

市長は「これから的生活を支援し、地区の振興に力を入れる」とあいさつしました。

学校の出前講座で城原川ダムについて学んだ神埼中1年の執行真菜さんと木原千尋さんは「出前講座で、私たちの生活を守るためにダムがつくられることを知りました。故郷を離れる大きな決断をしていただきありがとうございました」と水没地域の皆さんに感謝の気持ちを伝えました。



11/23 25年間の指導に感謝 原口・佐藤杯バドミントン大会



平成12年から活動してきた千代田Jr.バドミントンクラブが幕を閉じることになり、「卒業生、らが集まって「原口・佐藤杯」の記念大会を開きました。

指導してきた原口澄雄さんと佐藤悦子さんのもとには県内外から「教え子、が集まり、シングルスでリーグ戦と決勝トーナメントを実施。

閉会式では卒業生らが「お二人に教えられて成長することができた」と感謝。原口さん、佐藤さんは「素晴らしい試合で成長した姿を見て感無量だった」「クラブはお休みするが、今後もつなげていきたい」と話しました。

12/7 ふれあい広場 in 下直鳥



「ふれあい広場 in 下直鳥」が、千代田町のNPO法人「宅老ちよだひまわりの会」敷地内で開かれました。

同NPOが年1回のふれあい行事を続け、今の形に変化して3年目。約100人が集まり、bingoゲームやボードゲームでは「やったー」と子どもたちの歓声が響きました。みんなで手作りのたこ焼やカレーを食べるなど幅広い世代が楽しみ終始なごやかな雰囲気で、地区の絆を深めました。